

麗澤瑞浪の 四季だより

第27号 2014年4月23日 発行
麗澤瑞浪中学・高等学校 自然科学部

カタクリ調査報告

学園内には、全国的に絶滅が危惧されているカタクリが自生しています。カタクリは早春に



姿を現し、短い期間に種を残します。地下に養分を蓄え、その後、葉は溶けるように消えてしまいます。このような植物を「スプリング・エフェメラル(春の短い命)」と言います。この貴重な植物を保全するため、昨年4月より調査を開始しました。昨年の調査では、下草が生い茂る中でしたが、323個体を確認することができました。今年は生育環境を良くするため、冬の間の下草刈りを行いました。また、調査区画を設定し、正確な個体数調査ができるように準備しました。その結果、今年の調査では、719個体を確認することができました。今後は、環境調査なども行い、どのような管理が必要になるのか検討していきたいと思

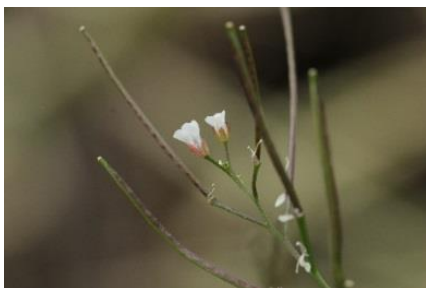
います。(熊谷)



新. タネツケバナ

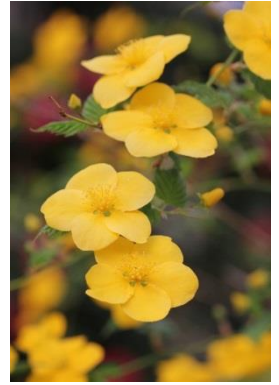
高さ20cm程度で3~4mm程度の白い花をつけます。名の由来は、苗床を作る準備の種籾を水に浸ける頃に花が咲くことからきています。この植物は面白い実をつけます。2cm程度で熟した後、刺激が加わると鞘が勢

よく2つに分かれます。これによって種が四方八方に飛び散ります。見かけたら是非、触ってください。(田中)



35. ヤマブキ

絵具や色鉛筆などで「やまぶきいろ」と呼ばれている鮮やかな黄色を知っていますか?この色は、4月頃に山の中に生え、金色で花の色が露に似ている「ヤマブキ」という花から名前が付けられています。このヤマブキには、黄色の「山吹」と白色の「白山吹」があります。薔薇科の花で、イギリスでは「イエロー・ローズ」「ジャパン・ローズ」などと呼ばれています。ヤエヤマブキ(八重山吹)とは違い、ヤマブキは一重で実がなります。



昔からヤマブキは、万葉集や金槐和歌集、松尾芭蕉などが詠んだ、和歌や俳句などに用いられています。詩人たちはヤマブキを見て、今年も春が来たのだと思い、詩を詠んだのではないのでしょうか?(林)

新. アワフキムシ

初夏、いろいろな植物に付着した白色の泡が見られ、その中にアワフキムシの幼虫が隠れていま



す。日本には約50種が知られ、成虫はセミに似ています。体長5~18mm程度です。幼虫は、植物の汁を吸い、体内で栄養だけを吸収して、余分な水は体外に排泄します。この水に、自らが分泌する有機物を溶け込ませて、お腹の気門(空気を取り入れる穴)から空気を吹き込んで泡立てます。

なぜ幼虫は泡を作るのでしょうか。それは、天敵と乾燥から身を守るためです。泡の中の空気が断熱材の働きをするので、巣の中にいれば気温の変化から身を守ることができます。また、アリなどがこの泡の巣に入ってしまうと、泡によって呼吸できず死んでしまいます。さらに、この泡はとても丈夫で、風雨にさらされたくらいでは吹き飛びませんし、日照りで干乾びることもありません。(山室)

参考資料 『野草の名前 春』高橋勝雄 山と溪谷社

<http://nature-sr.com/index.php?Page=11&Item=112>

<http://www.hana300.com/yamabu.html#1>

注: 植物名の前に記載した数字は、『麗澤瑞浪の樹木図鑑』の樹木ナンバー。『新』と書いてあるものは、新たに紹介する植物。